

国際ワークショップ
新たな価値を創造する文化遺産活用の国際共同研究
ユーザー関与度進化、地域づくりの視点

背景：2019年度10月より約2年半の研究期間をもって、日本学術振興会より研究委託を受けてきたところ、当初の研究計画に組み込んでいた①イタリアにおける事例調査と共同ワークショップ、②韓国における事例調査、③国内にある文化遺産の国内外訪問者への調査、といった大きなプランが全て実施不可能な状態となっている。昨年度末に1年間の契約延長と経費の繰り越しが認められたが、今年度末、再度の延長が認められるかどうか、全くわからない。

以上のような状況ではあるが、昨年度より可能な範囲で研究活動を進めてきている。メンバーによる国内事例調査（特にまちづくりとの関係から）を行う一方、インターネットによる全国調査を行い文化観光に関する行動と意識調査を実施した。今年度も、京都を題材としたバーチャルツアー動画を視聴した上で、文化観光に関して一般の人々がどのような意識を持ち、どの程度の参加意欲があるかを調査する予定である。この調査により、文化遺産の「活用」としての文化観光が今後どのような形態になっていくか、という点も考察していく。

ワークショップ開催の趣旨：イタリアでは文化観光の再構築が急速に進められているという。日本側で行った調査結果などの中間報告も含め、一度イタリアの共同研究先と研究交流の機会を設けることが目的である。

日時：2021年9月13日（月）16:00-18:05、オンライン

使用言語：日英（同時通訳あり）。発表者はいずれの言語を選んでもかまわないが、スライドは英語で用意し、1週間前には、発表内容その他の情報を通訳会社に送ることが必要。

参加者：本プロジェクトメンバーおよびIULM大学 Guido Ferilli 准教授のみ。非公開。

発表者1：八木匡 同志社大学経済学部教授

京都大学経済研究所助手、名古屋大学経済学部助教授を経た後、現職
日本経済学会理事(2002年～2007年)、文化経済学会<日本>会長(2018年～)
主著：European Economic Review 等海外学術雑誌等に論文を多数掲載。『教育と格差』、『スポーツの経済と政策』、『スポーツの組織文化と産業』、The Kyoto Manifesto for Global Economics: The Platform of Community, Humanity, and Spirituality 等の著書を執筆。

発表者 2 : Guido Ferilli IULM 大学文化経済学 助教授

経済学、データサイエンス、ヨーロッパのプログラムを中心に、文化経済学の政策設計と地域開発の分野で国際的な研究とコンサルティングを行っており、世界各地での研究と政策設計プロジェクトの調整に幅広い経験を持つ。現在は、コソボでの大規模な文化マッピングと政策デザインプロジェクトや、スウェーデン在住研究者や Uppsala 大学と協力して行った 3 プロジェクトを経て、Horizon 2020 プロジェクト「URBiNAT: Urban Innovative & Inclusive Nature」の IULM 担当ユニットを務めている。

発表者 3 : 土屋正臣 城西大学現代政策学部准教授

1999 年～2018 年 群馬県藤岡市役所で主に文化財保護行政を担当し、2020 年より現職

2016 年 東京大学大学院博士課程修了 博士（文学）

専門は、文化政策学、文化資源学。近年の研究分野は、五輪や万博などを含む文化開発、自治体文化外交、震災復興における文化施設の役割など。

プログラム：（発表・議論合わせて一人あたり 35 分）

16:00-16:10 開催の挨拶、趣旨説明（河島伸子）

16:10-16:45 発表 1 八木匡, A Study of Tourist Orientation by Travel Purpose

16:45-17:20 発表 2 Guido Ferilli, Artificial intelligence to design collaborative strategy:
An application to urban destinations

17:20-17:55 発表 3 土屋正臣「震災復興における自治体間外交の意味ーチビタベッキア
と石巻市の姉妹都市交流を中心に」

17:55-18:00 閉会